岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

# A Study on Livelihood Diversification in Forest Resource Dependent Villages of Northern Laos



| メタデータ | 言語: eng<br>出版者:<br>公開日: 2022-12-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: CAHYO WISNU RUBIYANTO<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12099/88954 |

| | |
|---|---|
| 氏　　名（本�国籍） | CAHYO WISNU RUBIYANTO（インドネシア共和国） |
| 学位の種類 | 博士（農学） |
| 学位記番号 | 農博甲第７８９号 |
| 学位授与年月日 | 令和４年９月１６日 |
| 研究科及び専攻 | 連合農学研究科<br>生物環境科学専攻 |
| 研究指導を受けた大学 | 岐阜大学 |
| 学位論文題目 | A Study on Livelihood Diversification in Forest Resource Dependent Villages of Northern Laos<br>（ラオス北部の森林資源に依存する村落における生業多様化に関する研究） |
| 審査委員会 | 主査　岐阜大学　教授　川窪伸光<br>副査　岐阜大学　准教授　広田勲<br>副査　静岡大学　教授　山下雅幸<br>副査　岐阜大学　教授　平松研<br>副査　立命館大学　教授　松田正彦 |

## 論文の内容の要旨

東南アジア大陸山地部では、近年のグローバル化の急速な進展に伴って、顕著な生業の変化が起こっている。特に内陸部のラオスでは、歴史的に不安定な生業を安定化させるように作物生産、家畜飼育、林産物採取、漁労、狩猟等を組み合わせた複合的な生業が営まれてきたが、近年のグローバル化や市場経済化によって大規模な商品作物の導入がみられ、土地利用の単純化がおきている。その一方でグローバル化は新しい生業活動に従事する機会も提供しており、地域社会に大きな経済的恩恵を与えるようになっている。本研究は、こうした背景において、これまで様々な生業活動を行ってきた農村が急速に外部とつながる際の適応過程を解明することを目的としている。

本論文ではまず、地域社会が市場経済化する際にこれまでしばしば議論されてきた「生業の多様化」に関して、文献のレビューを行っている。生業の多様化が本格的に議論されたのは、Ellis（1999）以降であり多くの重要な論文はサブサハラの事例をもとにしていた。東南アジアの事例もいくつかみられたが、ほとんどが収入源の多様化に関するものや、脱農化に関するものであり、また生業の多様性を測る指標も単純化されたものが使われているなど、現状を必ずしも反映しているとはいえなかった。東南アジア大陸山地部の生業活動の特徴の一つは自給的活動が多いことにあるが、こうした活動は表面化せず綿密な調査なしにはなかなか十分な観測、観察ができない。先行研究ではこうした綿密な生業活動の観察が不足したまま生業の多様化に関する多くの議論が行われてきたことが明らかとなった。

急速に変化する東南アジア大陸山地部の地域社会の将来像を構築するには、生業動態の正確な把握が必要であるため、本研究では現地調査をもとにより現状を反映した指標を採用し生業動態を分析している。近年のグローバル化による影響をみるため、本研究の調査地を、ラオスで道路交通網整備を最も活発に行っている地域の一つであるラオス北部フアパン県ソーン郡とした。広域における予備調査の後、村落へのアクセスしやすさに応じて、良好な村（フアイラオ村）、中間の村（フアイスー村、フアイサングアン村）、悪い村（ボン村）の 4 カ村を選定した。これらの村に 2018 年 4 月～6 月、2019 年 1 月～3 月に滞在し、合計 125 世帯に対し集中的な調査を実施した。また世帯ごとの調査に加えて、必要に応じて参与観察や古老への聞き取り調査を行い、情報を補完した。

およそ 20 年間の生業の変遷を追跡するため、村の生業活動のうち主な 6 つ、すなわち陸稲栽培、水稲栽培、トウモロコシ栽培、その他の換金作物栽培、赤いキノコ採取、その他の非木材林産物採取について、聞き取り調査を行い過去の情報を収集した。これと併せて道路交通網整備の状況を聞き取った。その結果、道路交通網整備によって非木材林産物の商品化が近年急速に進んでいることが明らかとなった。一方で中間および悪いアクセスの村は、商品作物の価格変動の影響を受けやすく、またこの影響を緩和するように生業活動の中で非木材林産物が貢献している可能性が明らかとなった。

住民の生業戦略の有効性を検証するため、世帯の経済状況と収入減の多様性の関係について分析を行った。先行研究の多くは自給的活動を見過ごしているものが多いため、ここにも留意した。生業活動を自給的活動と経済的活動のバランスを考慮しつつ 13 の活動に分けて独立変数とし、従属変数を世帯の総収入および生業活動の多様度指数とし、重回帰分析を用いてそれぞれ分析した。分析の結果、住民は依然として自給的活動を主要な生業活動として行っており特に陸稲生産を行っている世帯はより生業活動を多様化させていることが明らかとなった。アクセスの良好な村の世帯は最も道路交通網整備の恩恵を受けており換金作物の新たな導入も積極的に行っていた。アクセスが悪い村と中間の村は、非木材林産物が総収入と生業活動の多様性に多く貢献しており、商人の到達頻度が低く商品作物の価格変動を受けやすい環境を緩和するため住民によって活発に行われていることがわかった。さらに家畜の役割が村落によって異なることも明らかとなった、アクセスが悪い村、中間の村では家畜は住民の資産を維持するための動産としての役割を持った一方で、アクセスが良好な村では家畜は投資の対象として資産を増加させる役割を有しており、グローバル化の進む本地域において家畜は、生業安定化および本格的経済的活動を始めるための最初の資産として機能し、本地域において重要な役割を果たしていることが明らかとなった。また本地域では前進的な生業多様化が観察され、それには林産物が大きく貢献していることが明らかとなった。

## 審　査　結　果　の　要　旨

申請者 CAHYO WISNU RUBIYANTO は、グローバル化の影響が近年特に顕著なラオス北部フアパン県ソーン郡の 4 つの村落において精力的かつ綿密な調査を行い、これまで追跡されにくかった自給的な生業活動の指標化を含めた 13 の指標を採用することで、生業動態をより実態に近い形で表現した。世帯収入およびその多様度の分析の結果、これまで単純化して理解されてき

た非木材林産物によってもたらされる収入がこれまで以上に多様で、かつ市場経済化がはじめて村落に導入される初期段階においては、特に重要な役割を果たすことが明らかとなった。また、家畜飼育においても、市場へのアクセスが悪い村落では貯蓄、良好な村落では投資の対象となっており、不安定な外部環境を吸収する柔軟な役割を有していることも明らかとなった。これらの知見は、東南アジア大陸山地部の村落のこれからの持続的発展のあり方を考えるうえで重要な視点を提供するものである。

基礎となる学術論文


1) Rubiyanto, C. W. and Hirota, I.: A Review on Livelihood Diversification: Dynamics, Measurements and Case Studies in Montane Mainland Southeast Asia. Reviews in Agricultural Sciences, 9: 128-142, 2021.
2) Rubiyanto, C. W. and Hirota, I.: Livelihood Transition and Diversification Strategies of Mountain Villages after Road Development: A Case Study in Sone District, Houaphan Province, Northern Laos. Tropical Agriculture and Development. (in press)